

※答えはすべて解答欄に記入すること

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～8)に答えよ。

映画における音楽の位置をうんぬんするとき、だれしも口をそろえて重大だという。なぜ重大なのか。どういうふう<sup>A</sup>に重大なのか。だれもそれについて私に説明してくれた人はない。重大であるか否かはさておき、さらに一歩さかのぼって音楽は映画にとって必要であるか否かということさえまだ研究されてはいないのである。

音楽ははたして原則的に映画に必要なものであるだろうか。

だれかそれについて考えた人があったか。私の見聞の範囲ではそういうばかりのこと<sup>B</sup>を考える人はだれもなかったようである。

ただもう、みなが寄ってたかって「映画と音楽とは不可分なものだ。」と決めてしまったのである。原則的に映画が写り出すと同時に天の一角から音楽が聞えはじめなければならぬ<sup>C</sup>ことにしてしまったのである。

何ごとによらず、すべてこういうふう<sup>C</sup>に信心深い人たちであるから、いまさら私が「音楽は必要か」などという愚問を提出したら、それはもうわらわれるに決まったようなものだ。ことに音楽家連中は待つてましたとばかり、「これだから日本の監督はだめだ。てんで音楽に対する理解力もそ<sup>A</sup>うもないのだから、これでいい映画のできるわけがない」と、こうくるに決まったものだ。

ここでちよつとよだん<sup>I</sup>にわたることを許してもらいたいが、映画において重大なのは<sup>D</sup>何も音楽一つに限ったわけのものではないのだ。音楽家ないしはそのジレット<sup>注1</sup>諸君が映画をごらんになる場合、ほかのことは何も見ないでもつばら音楽のあらさがしだけに興味を持たれることは自由であるが、そのあとで、なぜ<sup>E</sup>この監督はその半生を音楽の研究に費やさなかったか、などとむりな駄目を出されることはなほだ迷惑である。

我々がその半生を音楽の教養に費やしていたら、いまごろはへたな楽士くらいにはなっていたかもしれぬが、決して一人まえの監督はできあがっていないはずである。

我々がもしも映画の総合そうごうするあらゆる部門にわたって準専門家なみの研鑽けんさんを積まなければならぬとしたら、少なく見積っても修業期間に二百年位はかかるのである。

要するに監督という職業は専門的に完成された各部署を動かしながら映画をこしらえて行くだけの仕事である。

自分で一々オーケストラの前へ飛び出して行ったり、楽士に注文をつけたりする必要はない。気にいらぬ楽隊ならさっそく帰ってもらって他の楽隊と取りかえればいいのであるが、日本ではなかなかそういうわけには行かないから、せめて音楽のFアフレコ(注2)のときには耳に脱脂綿でも詰めていねむりをしているのが、最も良心的とでもいうのであろう。

へたな楽隊を一日のうちにじょうずにすることは神さまだってできることではない。ましていつウかエの監督風情が、頭からゆげを立ててアフレコ・ルームを走りまわって見たところ(注3)で何の足しにもなりはしない。

いくらクライスラー(注3)でも一日数時間ずつ、何十年の練習が積みかさならなければあの音は出ない仕組みになっているのだから話は簡単である。一般の観察によると映画は音楽がはいってよいよ効果的になるものとされているらしいが、我々の経験によると、現在の日本では音楽がくわわって効果をます場合が四割、効果を減殺される場合が六割くらいに見えておオいてオいたオいがない。だから音楽を吹きこむ前に試写して見て十分観賞に堪え得る写真を作っておかないと大変なことになる。

ここは音楽がはいるから、もつと見られるようになるだろうという考え方は制作態度としてもイー・ジイ・ゴーイングだし、実際問題としても必ず誤算Gが生じる。

(伊丹万作『映画と音楽』による)

#### ※旧仮名遣いの一部を新仮名遣いに改めた

- (注) 1 ジレットタント——学問や芸術などを趣味として愛好する人。  
2 アフレコ——映画やテレビで、画面だけを先に撮影し、後から声や音を録音すること。  
3 クライスラー——オーストリア出身のバイオリニスト、作曲家。 1875

問1 アゝオのカタカナを漢字に直せ。

問2 傍線部A「だれもそれについて私に説明してくれた人はない。」とあるが、それはなぜか。次のアゝオの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 映画にとって音楽が重大なのは客観的に明白だから
- イ 映画にとって音楽が重大かどうかは、はっきりわからないから
- ウ 映画にとって音楽が重大だと信じ込んでいるから
- エ 映画にとって音楽が重大かどうかには興味がないから
- オ 映画にとって音楽が重大かどうかという疑問は音楽家に対して失礼だから

問3 傍線部B「そういうばからしいこと」とほぼ同じ意味で使われている言葉を文章中から漢字二字で抜き出せ。

問4 傍線部C「信心深い人たち」の特徴を表す言葉として最も適当なものを次のアゝオの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 信仰心
- イ 誠実けいけん
- ウ 敬虔けいけん
- エ 固定観念
- オ 信念

問5 傍線部D「何も音楽一つに限ったわけのものではないのだ」とあるが、映画監督がかかわらなければならないものについて述べた部分を本文中から13字で抜き出せ。

問6 傍線部E「なぜこの監督はその半生を音楽の研究に費やさなかったか、などとむりな駄目を出されることはなはだ迷惑である」とあるが、それは映画監督の役割のどんな特性によるためか。

問7 傍線部F「せめて音楽のアフレコするときには耳に脱脂綿でも詰めていねむりをしているのが、最も良心的とでもいうのである」とあるが、これには筆者の音楽または音楽家に対するどのような心情が表れているか。次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア 音楽に対する軽蔑
- イ 音楽家に対する遠慮
- ウ 音楽家に対する敬意
- エ 音楽の限界に対する割り切り
- オ 音楽を理解できないことへのコンプレックス

問8 傍線部G「誤算」とは具体的にどういうことを指すか。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

紅灯の華やかな街で、酔漢同士の取っ組み合いを見たことがある。片方がもう一方の上になり、何かを相手の鼻面に投げつけた。自分の名刺らしい。律義なことに、社名と役職まで名乗ったご仁はさらに畳みかけた。「お前、名刺を出してみろ」。

胃炎を吐いた人は、当方より一回りは上だったろう。酔態はもとより、けんかで肩書をしたのむ不法に閉じた覚えがある。「ああいう大人にはなりたくないな」と白む友人に相づちを打ち、その場から退散した。社会に出て間もない頃で、30年近くも前になる。

立派な肩書を刷った名刺も、効き目は在職の間でしかない。定年後の再雇用を機に後輩と立場を入れ替わり、職場でいらいらを募らせる人も多いと聞く。精神科医の保坂隆さんによると、「A」の思いが強い人ほど望みが絶たれたときの失意は大きいらしい。

連れ合いに先立たれ、一人で長い老後を送る人も増えた。孤独との付き合い方を説く指南本が売れるのは、人生100年時代に欠かせない処世術だからだろう。保坂さんの近著『精神科医が教える60歳からの人生を楽しむ孤独力』（だいわ文庫）もその一つである。

「A

「への執着<sup>オ</sup>を捨てれば楽になる。健康のために、お金より「歩数を稼ぐ

仕事」を。「いまさら」ではなく「いまから」——Eの凝らない老い方指南が楽しい。登

山と同じで、人生の山坂も上りより下り<sup>B</sup>の苦勞が多い。指針が求められるゆえんであろう。

89 歳まで生きた歌人の窪田空穂が、晩年に詠んだ一首がある。へともすれば若き身力還り

来む目覚めしのちの夢のごとくに。年の取り方は人それぞれ、<sup>C</sup>肩書も名刺も老いの道を探

す旅の切符にはならない。だからこそ難しく、楽しむ余地もある。

(二〇二〇年二月十六日付産経新聞一面『産経抄』より)

問1 傍線部ア～オの漢字の読みがなを書け。

問2   
  
 に、体の一部を表す漢字を一字ずつ入れよ。

問3 2カ所の  に共通して入るものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 初志貫徹
- イ 一期一会
- ウ 不言実行
- エ 生涯現役
- オ 独立独歩

問4 傍線部a「連れ合い」、傍線部b「指南」、傍線部c「処世術」の意味を書け。

問5 傍線部B「下り」と同じ意味で使われている言葉を、文章中からそれぞれ漢字二字で二つ抜き出せ。

問6 傍線部C「肩書も名刺も老いの道を探す旅の切符にはならない」とあるが、それはどういう意味か。その説明として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 一定の年齢に達すると、現役時代の肩書や名刺の代わりに鉄道や航空機のシニアパスがもらえる。
- イ 肩書や名刺への執着を捨てれば、気楽な老後を過ごすことができる。
- ウ 肩書や名刺を捨てることによってはじめて孤独感から解放されることもある。
- エ 肩書や名刺は人によって異なるので、老後の生き方も人それぞれである。
- オ 現役時代には役に立った肩書や名刺も、引退後の生き方には意味をもたない。

第3問 次の①～⑩のことわざ、慣用句の

を表す言葉を入れよ。(漢字、仮名書きどちらでも可)

に植物、果実、野菜、作物など

① 雨後の

② 火中の

を拾う

③ 木に

を接ぐ

④ 転がる石には

が生えぬ

⑤

食う虫も好き好き

⑥

の背比べ

⑦

の礫ごり

⑧ 濡れ手で

⑨

から駒が出る

⑩

に風